

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

8月

No.134

特集 P2・3

台風9号
豪雨災害
から7年

災害発生、その時 社協はどう動くか



ひ孫と
いっしょ

シリーズ133

千種町 河呂

河野 義春さん(82歳)

美奈子さん(81歳)

春名 海斗くん(1歳)

春名 研さん・真弓さん

■長男

台風9号
豪雨災害
から7年

災害発生、その時 社協はどう動くか

「平時からできること」を備え、災害時の活動につながります（H21・8・12 一宮町福祉自治会内）



平成21年8月9日から10日の未明にかけて、宍粟市に大きな被害をもたらした「台風9号豪雨災害」から7年が経過しました。今月号では、宍粟市社会福祉協議会（以下、本会）が、この間進めてきた災害への備えについて振り返るとともに、今後の取り組みについて考えます。

豪雨災害から7年 社協での取り組み

災害ボランティアセンター（以下、災害ボラセン）の運営には、**ヒト**（ボランティア等）、**モノ**（資機材等）、**カネ**（運営資金等）、**情報**（被災地の状況等）といった、さまざまな社会資源が集まり、被災者・被災地支援の役割の一端を担います。

本会では、豪雨災害以後、いざという時に備えた社会資源の確保に努め、災害から半年後、資機材の保管場所として山崎町鹿沢に**防災倉庫を設置**しました。平成22年度には、災害時の社

協職員の動きをまとめた**災害救援マニュアルを改訂**し、平成24年度には、災害時の**事業継続計画（※BCP）**を策定しました。

また、経験や教訓を生かすために**災害時対応訓練や災害救援ボランティアの養成**を行うなど、災害時を想定した取り組みを実践してきました。

3次計画で更に 重点的な位置づけへ

このような取り組みを進める中で、本会が6月に策定しました**第3次地域福祉推進計画（4か年計画）**では、「平時からの災害への備え」を重点的項目と位

置づけています。

昨年8月に、宍粟市と調印した「**災害時におけるボランティア活動等に関する協定書**」に基づき、本会の役割を果たすために、BCPやマニュアルの点検・見直しを行うとともに、ボランティアの養成（養成講座は8頁を参照）や訓練の実施など、継続的に取り組んでいきます。

それと並行し、災害時に地域内で取り組まなければならないさまざまな活動（例えば、ひと



本会職員を派遣した熊本県地震災害支援での活動レポートを福祉委員研修会で報告（メイプル福祉センター 7/15）

※事業継続計画(BCP)とは、Business Continuity Plan の略で、大規模災害等の不測の事態を想定して、事業の継続や復旧を速やかに遂行するために策定される計画を言います。

～宍粟市社協が進めてきた災害への備え～

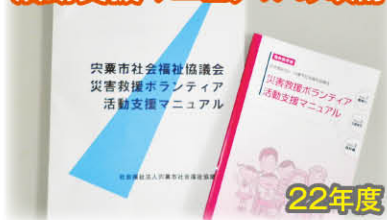
防災倉庫の設置



21年度

赤い羽根共同募金の配分金を活用し設置したもので、ここには万一の災害時のボランティア活動に活用できる資機材を購入し保管。

災害救援ボランティア活動支援マニュアルの改訂



22年度

豪雨災害の経験から、災害時の初動体制や職員状況判断フローチャート、災害ボラセン運営組織、携帯版等を見直し。

災害救援基金の設置



23年度～

災害ボラセンの設置・運営や被災地救援活動等の経費として、決算期に積み立て。(現在300万円積立)

災害時の事業継続計画(BCP)の策定



24年度

大規模災害時の不測の事態を想定し、事業の継続や早期に再開ができるよう、計画(準備や取り決め等)を策定。

災害時対応訓練の実施



25年度～

社協が持つ機能を発揮するために、訓練テーマや災害状況の設定、センターの設置場所等を検討しながら毎年訓練を実施。

災害救援ボランティアの養成



26年度～

市内での災害は基より、他市町の災害救援で活動に協力できる人材の確保に向けて、活動リーダーやボランティアを養成。

災害ボラセンと福祉避難所設置で市と協定調印



27年度

大規模災害に備え、災害ボラセンと福祉避難所の設置協定の締結により、宍粟市と本会や社会福祉法人等の協働した取り組みが実現。

被災地社協の「災害ボラセン」を支援



大規模災害時

東日本大震災をはじめ、台風12号豪雨災害(和歌山県)、丹波市豪雨災害、熊本地震等、社協のネットワークを生かした救援活動を展開。

日頃からのネットワークづくり



年間通じて

行政や福祉連絡会(自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員等)、関係機関、県内社協など、災害時に連携できる関係を構築。

『その時』に生きる社協活動を

り暮らし高齢者の安否確認や困りごとのお手伝い、避難所等への誘導など」に対応していくために、各自治会での小地域福祉活動の推進をさらに図ります。

そして、災害時に、地域・行政・NPO団体・社協等が連携・協働し救援活動に取り組めるよう、日頃からのネットワークを構築していきます。

社協は、地域住民の参加協力を得ながら、小地域福祉活動やボランティア活動を推進し、地域の福祉力を高めてきました。

このような日頃からの地域住民と結びついた活動の延長線上に「災害救援活動」があると考えられ、市民の「いのち」と「くらし」、そして「地域での生活を守る」ために、社協が取り組む意義は大きいと言えます。

どこでも災害は起きるという想定のもと、**災害時に社協は、そして、私たち社協職員はどのよう**に動けばよいのかを常に考え、その時に生きる社協活動に**平時から取り組んでいきます。**

(地域支援課長 波多野好則)

読者の感想より

7月号の表紙のひ孫さんとよくお会いするのですが、名前を存じあげなくて声をかけさせて頂きました。彼女もにっこり笑ってくれました(波賀町 女性)

や
まさき

昔のように子どもが集う場に

寺子屋 郁文学学校学習会

7月25日(月)、富士野町の「随陽寺」の本堂に、地元の小学生27人が、今日から始まった寺子屋郁文学学校学習会(5日間)に参加しました。

この寺子屋は、平成11年から毎年開かれ、今年で18回目となります。

学校制度が始まる以前に随陽寺が「郁文学学校」として、地域の子どもたちの学びの場となっていたそうです。

初日は、池田芳宗副住職の楽しいお話に始まり、自主学習のあと、紙飛行機飛ばし等のレクリエーションを楽しみました。

1年生の時から毎年参加の段舞音さん(4年生)は、「お寺で勉強や遊んだりするのは珍しいことだし、とても楽しい」と友だちを誘って参加していました。

副住職は、「境内で虫を捕ったり、お年寄りの方



セミの鳴き声を身近に感じながら、5日間を通じて、自主学習や地域の方を講師に迎え、茶道や工作・マジックを学びます(随陽寺本堂)

は座って休んでおしゃべりして。お寺が昔のように、地域に開かれたコミュニケーションの場になればいいですね」と話されました。

このように、身近な場所につどい、日頃から顔の見える関係をつくることで、お互い安心して声かけができる地域になると思います。

(山崎支部 山本めぐみ)

い
ちのみや

笑顔あふれる交流の場づくり

倉床ふれあい笑タイム

7月17日(日)、倉床自治会で「ふれあい笑タイム」が開催されました。

この催しは、同自治会が小地域福祉活動モデル地区に指定されたことを機に、福祉連絡会が中心となつて、住民交流の機会づくりとして取り組んでいます。

「昨年やつてみたら好評でな。アンケートをとったらぜひ続けて欲しい」と、自治会長の梶浦廣人さん。

高齡の方には送迎を行い、焼き鳥やそうめんの会食、輪投げ、ビンゴなど、参加者全員で楽しい時間を過ごされました。

倉床出身で山崎在住の田中克幸さんは「こんな機会には子どもを



輪投げに夢中な姿にみなさん笑顔です(倉床公民館)

連れてよく戻ってきます。昨年楽しかったのが今年も来ました。子どもも笑顔いっぱいですよ」と話されました。

また、「高齡者が多いので、こういう機会に若い人が戻ってきて手伝ってくれるのは本当にありがたい」との声も聞かれました。

「ふれあい笑タイム」が、住民同士のつながりを深める、笑顔があふれる交流の場として定着していくことを期待しています。

(二宮支部 岡崎章訓)

は
が

地域の人材をつどいの場に!

原有賀「健康づくり教室」

7月24日(日)、原有賀公民館で「健康づくり教室」が行われ24人が参加しました。

当日は、加藤智子(24歳)さんを講師に、ストレッチや簡単なトレーニング、脳トレなど指導いただきました。

加藤さんは、穴粟市地域おこし協力隊として昨年9月に京都市から穴粟市

(波賀町野尻)に移住され、地域活性化へ向けた取り組みのほか、森林セラピーガイドなど幅広く活動されています。

体操終了後、質問・交流タイムとなり、「若い人にきてもらったら元気がでる」「穴粟の方といっしょになって永住してください」など、終始和やかな雰囲気になりました。

原有賀地域づくり学習推進委員の水口浩也さんは、「地域おこし協力隊の活動を聞



できるかな?みんなで脳トレにチャレンジ!(原有賀公民館)

き、近くにおられる加藤さんに一度来てもらいたいと思っていたんです。全26世帯の自治会で24人も参加があったのはみなさん健康に関心があるから」と話されました。

今回は、地域おこし協力隊を講師に健康づくり教室を行いました。みなさんの地域にいる身近な人材といっしょに、誰もが気軽に集える場を計画してみたいかがでしようか。

(波賀支部 田中祥仁)

「明日もいっしょで会おうでよ」

奥西山のラジオ体操

「おはようございます」と朝6時20分頃になると、奥西山集落センターに児童やお年寄りの挨拶が飛び交います。

7月21日(木)、今日から夏休みが始まり、奥西山老友会(老人クラブ)では、毎年夏休みに児童の見守りを兼ねて『ラジオ体操』に参加しています。

5人の児童が前に整列して体操のお手本を見せながら、老友会のみなさんが汗を流します。

「こつやつて子どもの顔が見えるのはうれしいがよお」と、老友会長の池上恒一さんが話されると、「おじいちゃんやおばあちゃんといっしょにラジオ体操ができて嬉しい」と、児童たちは元気いっぱい話してくれました。

このあと8時30分から、毎週開催の『いきいき百歳体操』が行われ、体操は30分以上続きました。みなさ



「前に出て体操してね～」と、子どもたちがお手本です
(奥西山集落センター)

んの表情は達成感にあふれ、「明日もここで会おうでよ」と、集落センターを後にしました。

夏休みはまだ始まったばかりですが、ラジオ体操や百歳体操が社会参加や健康づくりにつながり、大切な居場所としての役割を果たしていきます。

(千種支部 横山洋子)

ち
くさ

宍粟市社協 ボランティア活動助成金



ぼらんちゃん

**ボランティア
125団体へ
166万円を助成**

7月11日(月)助成金交付審査会を開催し、166万円の助成を決定しました。

助成金は、宍粟市内のボランティアグループが、安定的かつ継続的に活動できるよう助成しています。

なお、助成金の財源は、市民のみなさまからお寄せいただいた善意銀行預託金を活用しています。

第61回こどもホームステイ事業
7月22日(金)～26日(火)

**ホストファミリーのみなさん!
ありがとうございました**



二葉園 松山園長があいさつ

今年は、54世帯のホストファミリーのみなさまにご協力いただき、64人の児童養護施設の子どもたちが家庭での楽しい時間を過ごしました。

7月26日(火)歓送式において、次の方々に表彰、感謝状が贈呈されました。

・のじぎく賞「5回受入れ」 (敬称略)

柴原 保文、由紀(一宮)
稲田 光夫、美智子(波賀)
上山 明、桂子(千種)

・宍粟市長感謝状「15回受入れ」

田中 彊、妙子(山崎)
柴原 利春、幸子(一宮)
山本 正幸、千津子(一宮)

私たちに出来る 「お出かけ支援」って?



話し合うことが大切です

7月29日(金)、6月に終了した「第2期お出かけ支援ボランティア講座」の受講者が集まり、今後の取り組みについて話し合いました。

感想や思いをそれぞれ語り合う中で「実際どのようなことがボランティアに求められているのか知りたい」「研修などを通してもっと学びたい」などの意見が出ました。

グループ化については、「まだ少し自信がない」との声もあり、話し合った結果、この集まりを「お出かけ会」と決め、私たちに出来ることを考えていくことからスタートすることになりました。

今後は「お出かけ会」の活動が、段階を踏まえながら確実に進んでいけるよう、しっかりとサポートしていきます。(山崎支部 秦亜里彩)

素敵な暑中見舞いを ありがとう!!



「佳音」のみなさんです。一枚一枚心を込めて…

絵手紙ボランティアグループ(佳音、やまゆり、いなほの会)から配食サービス利用者の皆様に、暑中見舞いのハガキが届きました。

ハガキには、「暑中おみまい申しあげます」「夏を元気に乗り切ってください」「暑い日が続いています。お元気でお過ごし下さいませ」といったメッセージに、夏野菜などの絵が書き添えされていました。

グループの皆さん、素敵な暑中見舞いをありがとうございました。

